

後志教育

No.139

～主な内容～

1. 卷頭言
2. 後志教育講演会から
3. 全教連函館大会より
4. 新任先生奮闘記
5. 実践の広場
6. 学校紹介
7. 研究団体紹介
8. 研修講座の風景

**第3学年選択理科
『資源ゴミの分別』**

泊村立泊中学校



寿海荘訪問

『全校合唱』

寿都町立潮路小学校



研修センター体制の一層の充実を

後志町村教育委員会協議会
教育長部会長 難波修二

後志教育研修センターは、設立以来三〇有余年にわたり、管内教職員の専門性を高め資質向上を図るために、各種研修講座や調査研究事業を推進し、後志教育の発展に寄与してまいりました。

しかし、近年の教育改革や行財政改革の大きな流れの中で、研修センター組合内部において事業運営や組織の見直しに関する議論が起り、現在組合からの要請を受けて教育長部会で改善策の検討を進めておりますが、その案の要点について簡単に述べます。

1. 組合教育委員会や運営委員会の体制充実と、教育長部会との連携を強化する。
2. 今日的な教育課題や学校・教職員のニーズを踏まえ、開設する研修講座等の精選に努める。
3. 主任所員の業務の全体的な軽減を進め、研究・研修事業の円滑な運営に努める。
4. 教育局の配慮による従来の配分旅費の見直しに伴い、旅費の取扱いを更に工夫改善する。
5. センター管理経費の一層の縮減に努め、市町村負担の軽減が図られるスリムな運営体制を構築する。

以上のような点について、今後、研修センター組合内部において慎重な検討が行われることになりますが、今日まで小樽を含めた後志全体の教育活動に果たしてきた研修センターの役割と成果に鑑み、このたびの事業運営や組織の見直しが一層の体制充実に資することを心から念願しており、今後とも関係機関はじめ教職員の皆様の御協力を

一つ目は、岩手県立総合教育センターが「高等學校の學習指導の改善に関する研究」指導に生かす評価の工夫を通して」と題して発表を行つた。この研究は、指導に生かす評価を工夫し、學習指導の過程における評価を意図的に進めることにより、高等學校の學習指導の在り方を明らかにし、指導の改善に役立てようとするものであった。高等学校において「指導に生かす評価に関する実態調査」を実施し指導改善の課題を明らかにさせ、指導計画と評価計画を一体化させた科目ごとの年間計画、単元計画の構築を図つた。また、評価活動の工夫として、授業者用評価シート・生徒用自己評価シートを作成し活用することにより、生徒の學習意欲の喚起と学力向上につながる見通しを持つことができるという成果があげられていた。

二つ目は、福岡県教育センターが「學習内容の習熟の程度に応じた指導の在り方」と題して発表を行つた。「確かな学力」を身に付けさせる上で「知識・理解」や「技能・表現」以外の資質・能力に習熟の程度に応じた指導が適用できるかどうかといつ

～評価を生かした「わかる授業」の実現～

報告者：明村秀之所員

参加者	及川年彦	主任所員	(俱知安中学校)
山本俊次	明村秀之	員	(俱知安西小学校)
所員	所員	員	(若内第一中学校)



三つ目は、北海道上川教育センターが「確かな学力をはぐくむ学習指導の在り方」と題して発表を行つた。確かな学力のおさえを明確にし、「確かな学力の構成要素」にかかる児童生徒の一人一人の学習状況を的確に把握した上で、育てたい力・伸ばしたい力を重点化し、評価を生かしながらきめ細かな指導を展開する必要性に着目した研究である。成果として、学習過程の工夫について、問題解決的な学習を基盤としながら、「習得の過程」と「探求の過程」の在り方を明らかにすると共に、重点化した「確かな学力」の構成要素の育成に向けて各過程での指導の手立てを工夫することにより、学習指導の改善を図ることができたことがあげられている。

本研修センター学習指導委員会では、高等学校と連携した研究の推進を図つていながら、今後小・中・高のゆるやかな連携を探ることにより、より充実した研究が成されると感じた。また、習熟の程度に応じた指導の工夫も単に基盤的な知識や技能面だけに目を向けたものではなく、考え方にも着目していくことで、日々の学習指導の充実が図られていくことも、今後の研究に盛り込んでいく必要性を感じた研究会であつた。

一つ目は、「子どもたちの規範意識の形成と指導の在り方」と題して、福岡県教育センターより発表された。規範意識を高めることは、人と人との結びつきを強め互いが幸せな生活を送る上で重要とおさえ、「社会的体験」「自己存在感」「他者からの期待」の三つの視点で地域ぐるみの研究実践が推進されている。地域には子どもの良さを見いだし、広げるため、「よきカード」を作成し、子どもたちを支える地域活動に工夫を凝らしている。

二つ目は、「豊かな心をはぐくむ指導の在り方」と題して、十勝教育研究所より発表された。道徳の時間の充実を図るために「体験活動等を活かした心と強く道徳上家庭や地域の人々等の協力による開か

第二分科会 心を育てる指導と評価
～豊かな心をはぐくむ教育活動の創造～
報告者：山本俊次所長

八月八日（火）に俱知安町ホテル第一会館プラザホールにおいて、後志教育講演会を開催いたしました。

この講演会は、北海道教職員厚生会の平成一八年度教育活動奨励助成事業として、後志管内の教育機関・団体で実行委員会を組織し、実施したもののです。

講師には、テレビタレントのダニエル・カール氏をお招きし、「ふるさとの国際化」と題して講演していただきました。

当日は、後志管内教職員、PTA、地域住民、小中学生など約二〇〇名の参加があり、山形弁研究家と自称する得意の山形弁を駆使し、ユーモアたっぷりの語り口に聴衆は引き込まれ、予定時間を超えての話も楽しく拝聴できました。

講演の記録より

ダニエル・カール氏は、少年時代から日本に興味をもち、高校生時代の日本留学や、学生時代の日本文化の研究、大学卒業後の英語指導助手の仕事など、日本と自分の関わりを振り返りながらお話しを始めた。

そして、その長い日本の生活を通して、時代の変化とともに日本人の外国人に対する意識や考え方も大きく変化してきていることを自分の体験に基づいて述べられた。

それは、外国との交流が多くなってきていることや、英語指導助手など国や各市町村の行政が英語教育（指



「あれ」という言葉。昨日の三つの会話で、「ダーニールさん、ずっとあれだから。」と言われました。やっぱり意味が分からぬ。

最後に日本の言葉には「顔が広い」や「腰が低い」など、外国にはない深い意味を持つ表現があり、外国人にとっては難解な表現だということ。だが、それは日本の大切な文化であり、外国人にも積極的に伝えてほしい。

この三つを忘れずにみんなもどんどん外国人と日本語で話してみてくださいと述べられた。

『ふるさとの国際化』

講師 ダニエル・カール氏

期日 平成二八年八月八日(火)
会場 ホテル第一会館プラザホール(俱知安町)

導) や国際交流に力を入れ、国際化を進めてきたからだと言う。





生徒と過ごす毎日

小樽市立西陵中学校 教諭 土井美幸

四月に小樽に赴任して、早半年が経とうとしています。どんな生徒たちが待っているのだろうと期待と不安の混じる中スタートした生活。今ではすかりとは言えないけど、自分なりの生活リズムが確立しています。しかし、毎日、色々なことに出くわします。「笑顔を忘れず」と心に決めていても、些細なことから気分が落ち込み、眉間にしわが寄る。今の中学生は大人以上に感受性が強く、その扱いに四苦八苦する日々。しかし、この仕事にやりがいを持ち、喜びを感じることが私の使命。一日一回、生徒と共に笑顔を共有できるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

空と海に抱かれ

積丹町立日司小学校 教諭 渡邊亮介

日司小学校に赴任してから、あつという間に半年が過ぎました。高台に建つ本校の眼下には積丹ブルーの海原が広がり、空と海を茜色に染める夕日が、心を癒してくれます。本校の全校児童は八名で、私は四・五学年複式学級の担任をしています。複式学級の担任は期限付きで採用されていた時に経験しており、さほど戸惑いはありませんが、日々の授業の組み立ての難しさを

改めて感じているところです。積丹の空と海に洗われ、子どもたちと共に、自分もまた、爽やかに成長していきたいと思っています。

先日、俱知安中学校で耐久遠足が行われました。羊蹄山一周、最長でおよそ四四キロにも及ぶコースを歩き抜く伝統行事です。私は担任している生徒とともに二六キロの道のりを歩き「俱中」の一員としての自覚を新たにしました。

俱中での毎日は、迷いと悩みの連続で、自分の未熟さを思い知らされる日々です。しかし、子どもたちのために成長しなければと強く感じています。

耐久遠足で手に入れた体力と精神力を糧に、さまざまな壁を乗り越えていこうと思います。

俱中の一員として

俱知安町立俱知安中学校 教諭 齋藤恵

先日、俱知安中学校で耐久遠足が行われました。羊蹄山一周、最長でおよそ四四キロにも及ぶコースを歩き抜く伝統行事です。私は担任している生徒とともに二六キロの道のりを歩き「俱中」の一員としての自覚を新たにしました。

俱中での毎日は、迷いと悩みの連続で、自分の未熟さを思い知らされる日々です。しかし、子どもたちはために成長しなければと強く感じています。

耐久遠足で手に入れた体力と精神力を糧に、さまざまの壁を乗り越えていこうと思います。

先日、俱知安中学校に赴任して六ヶ月が過ぎました。まだ自分にゆとりがなく、失敗を繰り返す毎日、子ども達の笑顔と懸命に努力する姿に励まされています。特に、できないことができるようになったときの子どもの喜ぶ顔は、何事にも代え難い力となります。

すぐに諦めてしまうのではなく、目指す目標に向かって力強く歩いてゆける、そんな芽を子ども達の心の中に根付かせることができるように、私自身も日々、努力を積み重ねていこうと思います。

教諭になつて

泊村立泊小学校 教諭 伊藤啓敏

初任者として泊小学校に赴任して六ヶ月が過ぎました。まだ自分にゆとりがなく、失敗を繰り返す毎日、子ども達の笑顔と懸命に努力する姿に励まされています。特に、できないことができるようになったときの子どもの喜ぶ顔は、何事にも代え難い力となります。

すぐに諦めてしまうのではなく、目指す目標に向かって力強く歩いてゆける、そんな芽を子ども達の心の中に根付かせることができるように、私自身も日々、努力を積み重ねていこうと思います。

学ぶ日々

蘭越町立御成小学校 教諭 金子美樹

昆蟲採集、一輪車が大好きな元気いっぱいの一・二年生の複式学級の担任をしています。日頃から感じることは「子どもから学ぶ」「子どもから教わる」ことの多さです。授業の技術もその一つです。「もつとこう指導した方がよかったです」と、子どもの反応を見て気づかれる毎日です。そこで反省を生かし、子ども自身が一時間一時間の中で「わかった!」「できた!」と自分の成長を感じることのできる充実した授業、子どもがわかる授業を目指していきたいと思います。

今後学ぶ姿勢を忘れず、学んだことを一つ一つ身につけ、子どもに返していくけるよう努力していくつもりです。

これまで、多くの方々にご支援頂いてきましたことに感謝しています。今後とも宜しくお願ひ致します。

アンテナは、高く 多角

小樽市立朝里中学校 教諭 計良育広

朝里中学校に勤務となつて、半年が過ぎました。うまいかない授業、伝わらない指示など、振り返ると様々な苦労がありました。

日々反省の毎日ですが、生徒とともに過ごし接する日々は、私にとって大きな財産であり、私の教師としての力量を高めてくれます。生徒に教えることもあります。生徒から学ぶことはそれ以上にあります。生徒から発せられる様々な信号を、広い視野を持つ敏感に感じ、生徒とともに成長する教師になりたいと思います。

朝里中学校に勤務となつて、半年が過ぎました。うまいかない授業、伝わらない指示など、振り返ると様々な苦労がありました。

日々反省の毎日ですが、生徒とともに過ごし接する日々は、私にとって大きな財産であり、私の教師としての力量を高めてくれます。生徒に教えることもあります。生徒から学ぶことはそれ以上にあります。生徒から発せられる様々な信号を、広い視野を持つ敏感に感じ、生徒とともに成長する教師になりたいと思います。

会話の大切さ

二セコ町立二セコ中学校 教諭 大浦泰廣

四月から一年生の学級担任として、無我夢中で毎日を過ごし、気がつくと半年が過ぎていきました。私は、三月まで高校で勤務していたので、年齢の違いによる戸惑いの中でのスタートでした。とにかく、出来ることから始めようとを考え、生徒との人間関係作りを目的に、生徒との会話を増やすように心がけました。授業や部活動などの様々な場面を通して、お互いの関係が出来ていく中、子供達から学ぶことがたくさんありました。これから、一人前の教師になるために、常に自分なりの課題を持ち、その解決を通して、子供達と共に成長していくべきだと思います。

「0からのスタート」

俱知安町立俱知安小学校 教諭 佐藤知世

「ことばの教室」という未知の世界に足を踏み入れて半年が経ちましたが、未だに頭の中に「?マーク」を浮かべて毎日を過ごしています。担任の先生とは違い、週に一度しか子どもに会えないこともあります。そこ見える子どもの成長や変化があるということを知り、自分の役割の大切さを改めて実感しました。今だからできること、今しかできないことに精一杯取り組んで、そこから得たものを子どもたちに還元していなければと思っています。

時間を大切にして

岩内町立岩内中央小学校 教諭 森勇樹

初任者として担任を持たせていただきて半年。昨年一年間、臨時採用をしていたときと、大きく意識が変わったことがあります。それは、『学校で過ごす一日、一時間は子ども達にとつて一生に一度しかできない時間なのだ』ということを意識するようになつたということです。

この時間が子ども達にとって、楽しく有意義な時間になるか、それともつまらない時間になるか。これから教師として、わかる授業、楽しい学校を子ども達とつくるような力をつけていきたいと思っています。

がむしやらに

神恵内村立神恵内小学校 教諭 佐藤皓亮

昨年度お世話になつた神恵内で、引き続き勤務できることを大変嬉しく思います。また、たくさんの方々に感謝しています。

『子どものいるところに教育あり』というように、今の自分がるのは、この神恵内の子どもたちのおかげだと感謝しながら、いつしょに成長していくこうという想いで、子どもたちの笑顔と元気な声が自分のエネルギーとなり、毎日を楽しく過ごしています。子どもが大好きで、たくさんのお子様たちに良い意味で影響を与えられたらと思い、選んだこの職業を誇りに、これからも精進していきたいと思います。

生徒と触れ合いながら…

余市町立旭中学校 教諭 野澤寛子

四月に旭中学校に赴任してから早くも半年が過ぎました。念願だった教師としての生活は、挑戦と迷いの連続です。「英語がおもしろい」と感じてくれるような授業がしたいという思いは裏腹に、「教える」ということの難しさや自分の未熟さを痛感しています。

そのような毎日ですが、私にとつて何よりの活力源は子どもたちとの触れ合いです。何気ない会話や部活動などで様々な面を見るたびに、「私はこの子たちに支えられているのだな」と思います。これからも、初心を忘れず、謙虚な気持ちで教師としての道を歩んで行きたいと思います。

通常授業での単位である学級は、実に様々な個性を持つていて、学級によつては短期間で結果の出ない場合も往々にしてある。そのため長い目をもつて根気強く指導することが重要になつてくる。生徒達の能力や個性も考慮したペースで、こつこつと確実な定着を目指し、そして必要に応じて学び直しができる、そんな學習環境を目指している。例えば、歌唱表現の授業の前に毎回発声や発音等留意すべき点を確認したり、楽典や楽語は反復學習により確認したりする時間を設けたりすることが、その環境構築を実践する一環である。

私は現在、学年がそれぞれ一学級の学校に勤務している。学校祭に合唱コンクールはあるが

徒自らが求められるよう導く支援ができるば理想的である。



しかし、学習内容を身につけるには、それなりの困難や辛さを克服する「努力」が必要であり、樂しさの優先だけで望ましい学力の定着を図ることは難しい。「生徒が意欲的に活動できる授業」を構築するには、生徒が少しでも意欲的に努力できる環境を支援することがカギであると思う。

目標を達成できれば「できた」という充実感を味わうことができる。そういう繰り返しを干 チベーションにして、将来的には更に大きな努力（負荷）の先にある更に大きな充実感を、生

実践の応場

A black and white oval-shaped portrait of a man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

積丹町立美國中學校

教諭白井尚史



ない場合も多いし、やる気の無い素振りは実はできないジレンマへの不貞腐れである場合も多い。そして何より、自己評価票によつて生徒が苦手とする部分に改めて気付かされることが多い。

「できそうだ」の期待感と「できた」充実感は次へのステップになる。生徒一人ひとりに対し、「音楽を表現する楽しさ、音楽を聴く楽しさ」を指導の中で教授できることを理想に掲げ、日々努力と研鑽を重ねて行きたい。

始めている。実践としては授業以外の場でも日常的なコミュニケーションをとること、そして授業の中で毎時間自己評価票を提出させること、今のところはこの二つが柱だ。自己評価票の提出はもともと



2006.11月号

後志教育研修センター所報

一、はじめに

教員生活を始めて十五年が経ち、この間に根室、日高、後志と三つの支庁、四町村の小学校に勤務させていただきました。行く先々の学校で出会う子どもたちはみな笑顔がてきて、その魅力に励まされ負けないようにして仕事に努める毎日です。

大きく語るような実践もないまますごして参りましたが、これまで自分が心がけてきたことが一つだけあります。それは、子どもたちとともに地域について学び、知り、考えるということです。

二、地域学習の転換点

島牧小に赴任し、はじめて担任させていただいたのが三年生で、四年生を終えるまでの二年間、指導して参りました。中学年の子どもたちは、社会科や理科の学習を通して、地域の様子を学ぶ機会があり、私自身も地元を知る上で好機となりました。

俗に地域を学ぶと、自然、産業、人、歴史、文化などが挙げられるかと思います。かつての自分自身もこれらを知り、子どもたちに伝えさえすれば、地域の全てを指導して

二、地域学習の転換点

島牧小に赴任し、はじめて担任させていた年にいたのが三年生で、四年生を終えるまでの一年間、指導して参りました。中学年の子どもたちには、社会科や理科の学習を通して、地域の様子を学ぶ機会があり、私自身も地元を知る上で好機となりました。



島牧のイメージを子どもたちに問うた時、真っ先に帰ってきたのは、青い美しい海と緑の豊かな山という答でした。ここに着目して地域を学ぶなら、盛んな漁業と、賀老の滝やブナの木生い茂る観光地という点に学びは集中するかもしれません。しかし、この島牧にも環境問題は確かに存在しているのです。この問題を探求するきっかけとなつたのが四年生の社会科、「水の行方」の学習でした。学校で使う水がどこから来ているのかを子どもたちは知りません。そこで役場の水道課の方に無理にお願いをし狩場山の麓、森の奥深くにある水源地まで出所を訪ね歩きました。狩場の大量の雪解け水が、賀老高原のブナ林の濾過機能によりおいしい飲料水となり届いていることを学びました。しかし、使用された水はどうしているのかこの問題を問うた時、真実を知る子どもは誰一人いませんでした。各家庭から出された排水はそのまま川や排水溝から海へと流れ出ていたのです。実際に排水を持ち込んで授業で見せた時

五、セミナー

この島牧の地は人口が少なく、先行きなどに多くの問題を抱えています。それによつて子どもたちの中には他の地へ出て行く者、逆に地域に残つて家族を助けていく者などがいるでしょう。しかし何れにせよ誰もが同じ地球の上で暮らしていくことにかわりはありません。それゆえに今すごしている自分の地域を知り、そこから世界を見つめていく、そんな認識が持てるよう育てていきたいと思うのです。



には講もか驚いていたのは言うまでもありません。やがて環境庁の募集で参加したこども工コくらぶの活動とあいまつて子どもたちは排水に気を遣い始めました。

実践の広場

子どもたちとともに 地域について学び、知り、考える
～地域と環境問題のつながり～

島牧村立島牧小学校
教諭 大嶋 隆治



本校は、昭和四十一年に栄中が喜茂別中に、さらに昭和四十七年に喜茂別中、双葉中、鈴川中の統合校として開校以来、三十四年を迎える。見渡せば尻別岳、羊蹄山などの山々に囲まれ、尻別川や喜茂別川の清流にも恵まれ「水の郷きもべつ」として親しまれ自然あふれる町である。

本校は、昭和四十一年に栄中が喜茂別中に、さらに昭和四十七年に喜茂別中、双葉中、鈴川中の統合校として開校以来、三十四年を迎える。見渡せば尻別岳、羊蹄山などの山々に囲まれ、尻別川や喜茂別川の清流にも恵まれ「水の郷きもべつ」として親しまれ自然あふれる町である。

喜茂別町は、後志の南東に位置し、札幌との動脈路ともいえる国道二三〇号線が街中を通り、年々生徒数の減少により、現在は、四十五名となっているが、地域の方々の学校教育はもちろん、子供の安全な環境づくりなど子供を地域で育てることに積極的な姿勢をみせていている。これらの地域の期待に応えて、開かれた学校を目指し、学校行事や授業を公開するとともに家庭・地域の教育力を生かした教育活動に積極的に取り組んでいる。特にここ二、三年は、地域との交流が深まりを見せ、今年度の教育活動の中でも、二〇回ほど地域の方の指導をいただくななど直接関わりを持つ機会を数

【交通安全街頭啓発活動】
生徒会生活部、生徒ボランティアや地域の関係者で旗の波をつくり、ドライバーへ手作りによる「押し花のしおり」を手渡し交通安全の呼びかけを行った。しおりの作成に、町の交通安全母の会の方二名に指導していた



地域の中で高まる安全教育

学校紹介

〈喜茂別町立喜茂別中学校〉

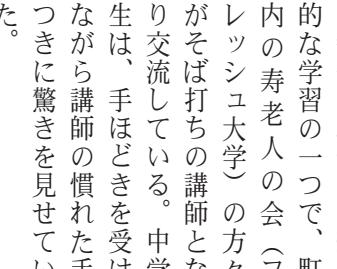
教頭 畠山英敏

『地域ではぐくむ豊かな心』

「生き方指導の強化を目指して」

地域の人材を活用した教育活動

【フレッシュ大学（寿大学）とのそば打ち交流】
毎年、二年生の総合的な学習の一つで、町内の寿老人の会（フレッシュ大学）の方々がそば打ちの講師となり交流している。中学生は、手ほどきを受けながら講師の慣れた手つきに驚きを見せていました。



本校は、学校の適正配置のため、昭和五十九年に旧発足・宮丘・梨野舞納の三校を統合し、北辰小学校として新たに開校され、二十三年目を迎えた。全校児童一二三名、職員一四名、七学級（特学一）で、全体的に明るく、素直で落ち着いて学習や学校生活を送っている。

校区は、稲作やスイカ・メロン栽培を中心とした純農村地帯で、豊かな田園風景が広がっている。校区北部は、泊原子力発電所に勤務する職員のための多くのアパートが建設されている。

この実り豊かな北辰の地に赴任して二年になるが、この地の大きな特徴であり常に気がつくと思うのは、学校に対する地域・保護者の皆様の厚いご支援であ



児童の安全教育も、各関係機関のご協力を得ながら進めている。四月の交通安全青空教室は、保護者・駐在所・役場・運輸会社などに協力していただき、自転車の実地訓練、人形を使用した衝突実験、大型車両を使用した危険探知実技訓練など、学年に応じて様々な訓



『地域・保護者の支援に応える教育の充実を目指して』

共和町立北辰小学校 教頭 河野利津子



開校以来、環境美化運動を通して豊かな情操を育成することを願い、「花いっぱい運動」をしているが、多くの保護者のご協力で、今年もグランドや教材園の環境整備を行うことができた。運動会、廃品回収、不用品バザーなどの行事はもとより、冬の全校スキーランドでも外部指導員として十名以上という多くの保護者の方々にお手伝をいただいている。

児童の安全教育も、各関係機関のご協力を得ながら進めている。

四月の交通安全青空教室は、保護者・駐在所・役場・運輸会社などに

協力していただき、自転車の実地訓練、人形を使用した衝突実験、大型車両を使用した危険探知実技訓練など、学年に応じて様々な訓

練を実施した。九月には、警察署の協力で、登下校時に不審者からどのように身を守るかと、いう内容で「防犯訓練」を実施した。いずれも、実際に目で見、肌で感じるという体験的工夫をしていました。

開校以来、環境美化運動を通して豊かな情操を育成することを願い、「花いっぱい運動」をしているが、多くの保護者のご協力で、今年もグランドや教材園の環境整備を行うことができた。運動会、廃品回収、不用品バザーなどの行事はもとより、冬の全校スキーランドでも外部指導員として十名以上という多くの保護者の方々にお手伝をいただいている。

児童が百メートル走で全国優勝をするという輝かしい栄誉を得ることができた。今年度も、陸上・羽球・卓球・相撲がそれぞれ全道大会や全国大会に出場している。これも保護者や地域の方々、社会科等の郊外学習、プール学習やスキーランドでの教育活動でスクールバスを運行し、学生会などの教育活動でスクールバスを運行していただいている。

スパート少年団活動では、昨年は六年生の児童が百メートル走で全国優勝をするという輝かしい栄誉を得ることができた。今年度も、陸上・

羽球・卓球・相撲がそれぞれ全道大会や全国大会に出場している。これも保護者や地域の方々、社会科等の郊外学習、プール学習やスキーランドでの教育活動でスクールバスを運行し、学生会などの教育活動でスクールバスを運行していただいている。

行政の支援も大変行き届いていて、見学旅行、社会科等の郊外学習、プール学習やスキーランドでの教育活動でスクールバスを運行し、学生会などの教育活動でスクールバスを運行していただいている。

今年度も、これらの支援に応えるために、家庭や地域に信頼される学校を目指して職員一同努力していきたい。

今後もこれらのご支援に応えるために、家庭や地域の願いをしっかりと把握し、児童が明るく元気に登校する学校、通わせてよかつたと保護者や地域に信頼される学校を目指して職員一同努力していきたい。

協力しながら効率的に指導を行うことができた。

今後もこれらのご支援に応えるために、家庭や地域に信頼される学校を目指して職員一同努力していきたい。

研究団体紹介 後志国際理解教育研究会

『白ら地球にひらき、未来を切り拓く 児童・生徒の育成』を目指して



後志国際理解教育研究会

事務局長(岩内町立岩内第一中学校 教頭)

橋 本 直 樹

- ◎総会
- 総会の開催と共に研修会をもち、在留外国人の方や海外在住経験の豊かな方、在外施設などから帰国された先生などのご講演もいた

「主な活動プロフィール」

本研究会は、平成六年に、社会の急速な国際化の流れやALTの導入の流れなどから、国際理解教育に関心をもつ教員や海外日本人学校帰国教員、中学校英語科担当教員などが中心となって、後志の地でも研究や実践を深めていきたいという熱い思いの中結成されました。

その後、毎年管内研究大会の開催や、北海道の研究大会に参加し、国際理解教育の新しい流れや後志の研究の流れを発信してきました。平成十年には、後志で北海道国際理解教育研究大会を開催し、後志の研究を全道に発信しました。現在は、標記の研究主題の下、道の国際理解教育研究協議会とも連携を取りながら、従来から取り組んできた教科・特別活動における実践の研究と共に、指導要領改訂による「総合的な学習の時間」の導入から、その時間を利用した実践もリンクさせながら研究を進めています。また、ここ数年間は、いよいよ教育課程に盛り込まれる可能性が高まっている、小学校での外国語活動について、管内の実践を研究大会の中で授業公開したり、学習会の中での実践交流や先進地区の実態学習などを行っています。

◎夏の学習会

本会の研究主題・研究内容等についての学習会や会員の実践交流なども行います。他に、在外教育施設から帰国され、ある程度年数が経った先生の帰国後の実践や思いを、派遣国の様子（事情）を絡めての講演もあります。

だいています。

◎研究大会

本会のテーマもある「いつでも・どこでも・誰にでもできる国際理解教育」の授業を目指し、授業公開を行うと共に、研究協議によって更に内容を深めていくよう取り組んでいます。

だいています。

◎冬の学習会

今年度の本会の研究大会と道の研究大会の様子や内容を研究部を中心に報告し交流します。また、今春在外教育施設から帰国された先生の報告や次年度派遣される先生の激励を兼ねた懇親会、在外教育施設に興味のある先生方のための学習会も行います。

このような活動や研究に興味のある先生方の、学習会などへの参加や本研究会への入会をお待ちしております。共に学び合いましょう。

本校は、昭和二十八年十月に奥沢・天神・真栄の各地区を校区として新たに開校した中学校で、今年で五十二年目を迎えた。歴史は比較的浅いが、恵まれた環境と充実した施設・設備を持ち、生徒も「太陽に向かってのびのびと活動すること」を表象している校章のいわれを表現するようにのびのびと学習・スポーツに励んでいる。

『小樽を発信』

本校の「総合的な学習の時間」の領域Ⅰは、一年生では地元小樽について伝統文化・環境・歴史・産業についての学習を通して自分



盛岡の施設での小樽紹介

動・発表活動・体験学習を通して、身につけた追究力や表現力を生活に生かす力を育むことを目標としている。今年度の三年生は、修学旅行先で訪問する商店街や地域のコミュニティーセンターにおいて地元小樽の良さを知つてもらうためにPR活動に取り組むことにした。

②施設訪問（道外の人に小樽市を紹介しよう）
盛岡市でデイサービスセンターを訪問し、メルヘン通り、小樽港、水族館、夜景、朝里川温泉、手宮洞窟、運河通り、酒泉館、小樽駅などを観光名所の紹介を交えた小樽市のPRに取り組んだ。帰樽後、盛岡の施設の方から「感動した」というお礼の手紙が届き、生徒達の間に新たな感動が生まれ、さらなる充実感が広まった。

③まとめ
これらの三年間の学習を通し、生徒達は「自主・躍進・創造」という向陽中学校の学校教育目標の具現化を目指し、今後、文化祭や卒業式での取り組みに発展させていく。



商店街での踊りの披露

学校紹介

『小樽を発信』

小樽市立向陽中学校
教頭 福田信正

生徒達の手でつくられ、当日商店街で配布された。これらの活動は当地の新聞やテレビに取り上げられるなど大きな話題となつた。

研修講座の風景

今年度は、学校教育関係二七講座、社会教育、幼稚教育関係各一講座の合計二九講座開設しましたが、一月一五日、一六日の「国語科」研修講座で全講座が終了いたしました。五〇〇名以上の受講者数となりました。講師の先生方、ありがとうございました。

生活科

七月一四日（金）

○講師を含めて、七名の参加がありました。理論研修だけではなく、「紙書き」の実習も行い、実践的な内容となりました。

講師
木村孝司先生（俱知安町立西小樺山分校）
高木弘道先生（蘭越町蘭越小学校）

〔受講者より〕

○今後、自分が子ども達の前で実践する授業の細かいところまでシミュレーションできました。

○概論、実践、作業と盛りだくさんで良かった。

○実践交流、各校の地域色を生かした取り組みを聞くことができて大変参考になりました。



特別活動

九月一三日（水）



講師

外本雅信先生（岩内町立岩内西小学校）
小林正人先生（俱知安町立西小学校）

講師

講師を含めて、九名の参加がありました。

○特別講師として北原徹也氏（札幌市立緑丘小学校教諭）をお招きして、講義も行いました。また、午後から後志特別活動研究大会に参加し、岩内西小の藤井裕治先生には授業も提供していただきました。

講師及び小学校教諭七名を含めて、三六名の参加がありました。特別講師として道立特殊教育センターの千葉聰美室長（知的障害教育室）にきていただき、発達援助の在り方にについて講義をしていただきました。

講師 石田由紀子保育士（積丹町立びくに保育所）

〔受講者より〕

○プレゼンやお話しが明確でわかりやすかったです。初步的なところをとばさず構成された内容で、それが親切で良かった。職場でも今回のお話しや資料について伝えていきたい。

○クラスに障がいの疑いのある子がいるが、担任として全く知識がなく、どう関わるべきか考えていたので参考になった。

○パニック時の対応など知りたいことを聞くことができて良かった。保育園に戻り、実践できそうなことはしていこうと思っています。

〔受講者より〕

○授業公開があると実践的な部分がより明確に見えてくる。今回の内容は、他教科でも十分取り入れられる内容だった。

○分かりやすく、とても勉強になりました。しばらく他の実践資料も大変良い。

○今回の講座に参加して、もつと若い先生方に特活の大切さを理解してもらいたいと思った。



指導案提供のお礼

10月3日付けで、各小中学校にお願いしております指導案の件、ご提供いただき誠にありがとうございました。

研修センターHP教育情報のページにて閲覧できますので、どうぞご覧になってください。

なお、〆切は過ぎましたが、随時受け付けております。その都度UPしていく予定ですので、今後ともよろしくお願ひいたします。

また、メール等でセンターに関するご意見、ご感想などもいただければ幸いです。

<発行所>

後志教育研修センター

〒 044-0013

虻田郡俱知安町南3東4

TEL 0136-22-1337

FAX 0136-22-2681

E-mail skc@cocoa.ocn.ne.jp
http://www.shiribeshi-etc.jp/

<発行者> 赤塚 洋 昭

<印刷所>

有限会社 いとう文化堂印刷